令和6年度　第4回市長と能ん美りカフェトーク

能美市老人クラブ連合会との市長と能ん美りカフェトーク

日　時　　令和6年9月30日（月）10:00～11:00

会　場　　能美市ふれあいプラザ 第2会議室

参加人数　4人

〇能美市老人クラブ連合会　会長挨拶

〇自己紹介

〇はじめに

【市長】

・月に２回から３回程度、タウンミーティングや能ん美りカフェトークを開催させていただいている。11月末の貴団体とのタウンミーティングでお話しさせていただくことをかいつまんで、まずは紹介させていただく。

〇市の概要

【市長】

・全ての施策・事業が移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。自治体の勢いを示す数値で、私は一番わかりやすいのが人口だと思っており、人口が増えている、あるいは維持されていれば、そのまちに勢いがあるということである。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増となっている。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている状態である。子育て環境を整え、赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるようにするため、また、健康寿命を延ばして、長生きをしてもらえるようにするため、様々な取組を行って

いる。

・７つの事業・施策に対して、５つの方針・目的を設けている。

・方針の１つ目は、防災・減災対策であり、令和６年能登半島地震や一昨年の大雨を受けて、自然災害や火事、交通事故等々の対策に取り組んでいる。

・２つ目は、市民力・地域力の強化である。市民力・地域力が高いことが能美市の強みであるが、新型コロナウイルス感染症の影響で人流が制限され、市民力・地域力が大分落ちてきていると感じている。老人クラブや壮年団、女性会の人数が大幅に減ってきており、対策を講じている。その一つに、ふるさと愛の醸成があげられる。市民に能美市のことを好きになってもらい、誇りに思ってもらうために、例えば市史を編さんしている。根上、寺井、辰口にそれぞれ町史はあるが、能美市としての市史がないので、市制誕生20周年に向けて作っている最中である。また、交流やふれあいを増やしてもらえるようなイベントや行事、講演会等を積極的に増やして、今まで参加できなかった人や、参加してこなかった人にも参加してもらえるような内容にしようと取り組んでいる。また、市民力・地域力を高めていくためには、健康でなくてはならないので、市立病院に健診センターを新設、サンテをリニューアル、人間ドックの助成額を上げる等、行っている。そのほか、福祉向上にも努めるため、地域共生交流館（旧亀齢荘）のリニューアルに取り掛かり、インクルーシブ遊具を設置した公園を市内に２か所造った。

・３つ目は、地域ブランドの確立であり、簡単にいうと、まちづくりである。例えば能美根上駅や加賀海浜産業道路、加賀産業開発道路等、それぞれのエリアや幹線道の沿線をどうやって活性化していくかということに取り組んでいる。

・４つ目が、ゼロカーボンシティである。能美市もCO_2の削減を宣言しており、2013年のCO_2排出量に対して2030年は半分に、2050年はゼロにしようという世界の目標のもと、様々な取り組みを行っている。

・最後がインクルーシブシティであり、インクルーシブとは、誰一人仲間外れにしないという意味である。さらに能美市は「スマート」を付けて、デジタルの力を使って地域共生社会を築こうと様々な取り組みを行っている。

・市内の82か所の公民館にＷｉ－Ｆｉを整備し、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はｅスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために来てもらって、公民館を多世代の交流の場とする。加えて今、公民館でオンライン診療を行おうとしている。慢性疾患の方は月に１度、薬をもらうため

に病院に通っているが、通院の負担を軽減するため、公民館でオンライン診療を受けることによって、病院や薬局に行かなくても薬をもらえるようにしようとしている。ただ、いろいろな制約や課題があるので、まず粟生公民館をモデルケースとして、検証を行いながら、ほかのところにも広げていこうと考えている。また、公民館は避難所になることが多いので、マイナンバーカードによる避難所チェックインを行おうと進めている。また、監視カメラを設置し、子どもたちが通ったかどうかや、公民館の付近の川がどれだけ増水しているか等をチェックできるようにしたいと考えている。

・ＩｏＴ家電を使った見守りを行っている。空気清浄機やエアコン等のセンサーにより、室内環境をリアルタイムで把握することができ、もしもの際には、家族やケアマネージャーに通知される仕組みとなっている。将来的には、気象警報や能美市からの避難指示等もＩｏＴ家電を通して知らせることができるように目指している。

・福祉見守りあんしんマップのデジタル化を行っている。一人暮らしの高齢者を対象に、今まで民生委員・児童委員やケアマネージャー等が毎年、秋頃に訪問して、服薬状況や病状をチェックして紙で情報更新していたが、それを電子化し、必要な情報を必要なときに取り出せるようにしている。

・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなってしまうということが発生し、電子カルテ化が広まった。石川県では、既に電子カルテ化が始まっており、今回の能登半島地震の時に役立った。能美市内の病院やクリニックでも、全部同じ電子カルテにして、平時だけではなく災害時でも、しっかり医療を受けられるようにしようとしている。

・のみバスを補完するため、ライドシェアに取り組もうとしている。タクシー運転手など二種免許を持っている人がだんだん少なくなって、全国でライドシェアが広がっている。小松市や加賀市では、観光客を対象にライドシェアが始まっているが、能美市では、交通弱者を対象とする。まずは辰口の国造地区を対象に、アンケート調査を行い、ライドシェアを始めようとしている。

・11月末のタウンミーティングでは、今ほど申し上げた５つの方針・目的をさらに詳しくお話をしつつ、それから能登半島地震での能美市の取り組み等をご紹介できればと考えている。

○意見交換

【参加者】しらさぎ団地周辺に住んでいるが、２年前の大雨のときに、水があっという間来て驚いた。夏休みだったので、孫も家にいたが、最近、能登の大雨で中学生の女の子が流されて行方不明になったというニュースを見て、冷や汗が出た。災害の怖さを感じた。

【市長】一昨年の雨を受けて、同じ量の雨が降っても同じような被害出ないように、今様々な対策を行っており、福島のしらさぎ団地に調整池を新しく造ったり、川の堤防で穴が開いたところを全部埋めたりしている。また、県の事業で西川の川幅を倍にする工事が始まり、あわせて手取川の間に樋門を造る工事が始まるので、恐らくあのような被害は生じないだろうと考えている。さらに、手取川宮竹用水土地改良区と協定を結び、大雨警報が出た場合に、手取川からの取水を停止し、宮竹用水を宮竹排水として使えるようにした。

【参加者】弟夫婦から、二人目の子どもができたときに、一人目の子どもを保育園に預けようとしたら、預かってもらえなかったという話を聞いて、問題であると感じた。

【市長】まず、能美市には基本的に待機児童はいない。しかしながら、１人の保育士が見られる子どもの数が決まっており、子どもの年齢が若ければ若いほど１人の保育士が見られる人数というのは少なくなっている。そのため、ちょうど人数がいっぱいの場合には、小さい子を入れようと思っても入れられないケースがある。しかし、その保育園には入れなかったとしても、ほかの保育園で受け入れることはできるので、もしかすると、ご近所の保育園で預かってもらえなかったというケースなのかもしれない。入園が年初の場合は、今年何人子どもが入ってくるかを調査して、できるだけご希望の保育園に入ってもらえるように保育士の調整をしているが、途中入園となると、ご希望の園に入ることが難しいケースがある。

【参加者】デジタル化に対する抵抗感がある。なぜかというと、例えば子どもたちだと、デジタル化で何でもできるので、近所の友だちと外で遊ぶことが減り、どんどん関係性が希薄化してきている。そして大人になっても、自分一人で遊べばいいという考えを持つようになり、コミュニティが希薄化している。デジタル化の良い部分は伸ばしていけばいいが、コミュニティが希薄になるような部分は何とかしなければならない。

【市長】デジタルは道具であって、人間と人間のコミュニケーションを阻害するものではない。例えば、デジタル公民館に取り組んでいるが、多世代間の交流をするためにデジタ

ルという道具を使ってやろうとしている。また、デジタル化が進めば進むほど、人が介在する必要が出てくる。買い物に行けない人がスマホ等で注文して、注文したものを公民館に持ってきてもらう、デジタル物流を今行おうとしている。それにも商品の受け取りを管理する人が必要であり、人がいないとデジタル技術の活用がうまく進まない。オンライン診療でも、カメラを置いておけばできるわけではなく、補助する人が方法を説明したり、手助けをしたりしないと進めることができず、デジタル化が進めば進むほど、人が必要になる。さらに、コミュニケーションを取ってもらえるような仕掛けをどんどんやっていく予定である。

【参加者】自治会の役割機能が大切で、老人会にしても壮年団、婦人会にしてもそこを起点として、能美市全体の地域コミュニティを図るというような政策が重要である。
【市長】おっしゃるとおりで、今市内に74の町会・町内会があるが、町会・町内会がないと能美市の運営ができない。町会長、町内会長の皆さんに大変お世話になっている。例えば、ごみ屋敷を処理したいが、町会だけでは対応できないとご相談を受けて、市も一緒に取り組んだ。処理にはお金が必要となるので、地域力強化支援ファンドを作って、市からある一定程度の助成金を出すようにした。このファンドでは、ごみ屋敷の処理だけでなく、子ども食堂や交通弱者の人を支援するような取組にも、助成金を出せるようにしている。また、最近では、自衛消防団活性化のため、道具等を保管する倉庫が必要な場合、その費用の約半分を助成し、最大200万円を補助している。そのほか、市誕生20周年に向けて市民皆さんでお祝いをし、機運を高めようと、令和６年度予算でふるさと愛醸成事業として、自由に使える補助金を各町会、町内会に出すようにしている。

【参加者】よく健康のための催しを行っているが、健康のためだけだとなかなか人が集まらない。だから、軽スポーツや文化的な講座、教室を幾つか作って、それを具体的にＰＲして、老人会への加入を促していきたいと考えている。また、事務局にも伝えているが、金沢大学付属病院の先生に来てもらって、70歳以上の方を対象とした研修会を行いたい。老人会でその先生を第二オピニオンとして使えるようにすれば、健康や予防に良いのではないかと思う。子育てや介護についても、国や県が主導的に制度を作っているが、もっと前向きな予防ができないかと考えている。これは市の財政や活性化にも寄与することである。

【市長】イベント系の話からすると、敬老会はこれまで、根上、寺井、辰口の地区それぞれ１か所で大規模に開催していたが、だんだん出席者が少なくなり、また参加者が固定化されてきたので、今は基本、74の町会・町内会で開催するように変えた。そうすると、会場も近く、顔なじみの人が参加するとなるので、多くの方が参加してくれるようになった。ただ、数年に１回、町会・町内会の開催では呼べないような芸能人に来てもらって、大きく開催する機会を設けようと考えている。

【参加者】町会、町内会別に敬老会をすると、お金は市から出るからもしれないが、敬老会を開催しない町が出てくるのではないか。必ず開催する条件で、町会・町内会に話をしてほしい。

【参加者】地域コミュニティを本当に強くするには、参加者が多くならなければならない。参加することによって、実質的な効果があり、地域の活性化にもつながる。温暖化や北陸特有の真冬の気候で、お年寄りが外に出られず、じっと家でテレビばかり見ている状況は極めて不健康なので、様々な教室や講座等を開催し、外に出る機会を設けるようにしたい。市の方でも後押しをしてほしい。

【参加者】根上学習センターや寺井地区公民館で開催するとなかなか参加しにくいので、教室が月によって、各地区の公民館を移動して開催するような形でも良いと思う。

【市長】カレンダーを見ると、ふれあい教室やいきいきサロン等、結構いろいろな催しをやっている。

【参加者】普段いきいきサロンには10人ほどしか出て来ないのに、敬老会になると70人近くの参加者がいる。

【市長】出るきっかけも大切であるが、出てもらうだけではなく、出てもらったときに、また行ってみたいなと思ってもらえるような仕掛けも大事だと思っている。

【参加者】健康クラブで体操を道林町の根上体育館で行っているが、冷暖房がないので、夏と冬、それぞれ２か月だけ、根上総合文化会館の円形ホールを使っている。ただ、温暖化で６月や９月もすごく暑いので、せめて４か月使用できるようにしてもらえないか。冷房が効く浜小学校横の根上勤労者センターはなかなか使用できないと担当の方が言われている

【市長】冷暖房が使える施設は根上地区だけでもいくつかある。状況を確認する。

【参加者】能美市の偉人の業績を能美ふるさとミュージアムの壁に掲示できないか。小学生が必ず見学するようにすれば、ふるさと愛がさらに醸成されるのではないか。
【市長】偉人の功績を伝えるとなると、ある程度のマスがないと伝えられないような気がする。また、それぞれにちなんだ形で掲示するのが良いと思う。しっかりと大きく紹介した方が良いのではないかという思いがあったので、佐々木守さんは学習センターに専用で作った。ぜひ、見てほしい。

【参加者】20周年を記念して能美市の花や木を決めないのか。新たなこれからの能美市に何がふさわしいのかを考えて決めてはどうか。
【市長】一般質問でも同じような質問が今まであった。旧３町の花と木がそれぞれあって、１つに絞るか、新たに決めるかで悩ましい。指定するだけでなく、植えていかなければならないという問題もある。それぞれ愛着もあるし、難しい問題である。合併した時にも懸案となった。

○閉会